

第1学年特別活動指導案

日時 平成15年9月2日(火) 5校時
学級 胆沢町立南都田中学校 1年B組
男子15名 女子11名 計26名
場所 胆沢町立南都田中学校 1年B組教室
指導者 教諭 佐藤 明子
情報教育指導員 高橋 克伸

1. 題材名 「働く人々の仕事と考え」

2. 題材について

〔題材観〕

中学校の発達段階において、第1学年のこの時期は、自分の周囲や社会現象に関心を持ち始め、自己の将来についても具体的に考え始める時期である。そこで将来への展望を持たせ、学ぶことの意義や目的について考えさせることによって、学習意欲を喚起させたいと考えている。学ぶ機会は生涯にわたって開かれているものであり、中学生のこの時期に、目標を持って生きていくことの喜びと大切さを理解させることは、将来設計を通して進路意識を高めさせる起点となるであろう。また、将来に夢と希望を持たせ、中学生としての指針と展望を与えることによって、今後の生活の在り方についても考えさせることができると考えられる。

そのため、実際に身近な人々から、仕事の内容や、働く喜び・苦勞について聞き、仕事に対する考え方をすることは、よりよい職業観や勤勞観を育むのに適している。

〔生徒観〕

落ち着いた生活のできる生徒たちであり、これまでの運動会や学年縦割りの合唱交流会、日常の部活動などを通して、先輩の活動を見聞きしながら中学校生活にも慣れ、7月には初めて自分たちの手による「仙台自主研修」を成功に収めたところである。入学当初はおとなしく、学級の係活動も思うように進まなかったが、次第に呼びかけや点検活動もすすめられるようになり、1学期最後の球技クラスマッチでは互いに声を掛け合い、チームワークを大切にしたり取り組みができた。

進路に関する学習は、学ぶことの目的や意義について認識を新たにしたりばかりであり、第1回定期テストへの取り組みを通して望ましい学習習慣を身につけようとしているところである。職業については、家族などの身近な人の職業に興味を持ち、自分もそうなりたいと考えている生徒が多い。しかしそれは、職業の多様性や職業の3要素、望ましい職業観に立ったものではなく、自己の興味・関心や身近な人々の職業であるから、という理由が多く、どんな職業に就きたいか考えていない生徒の割合が最も多い。

〔生徒の見方・考え方を生かした指導〕

これまでの、学習を通して、進路学習の重要性や自分の将来への興味や関心が持てるようになってきた。また、職業の多様性や自分の適性について気づき始めている。しかし、将来自分がどんな職業に就いて、どんな働き方をしようと思うのかについては十分に考えておらず、職業の選択にあたっては、「収入」や「個性を生かせるもの」が基準になりそうだと、とはわかるものの、「社会への貢献」や「社会的な分業」に対する考えは、まだない。そこで、身近な人から職業に対する話をうかがい、働くことへの興味・関心をさらに高め、職業選択能力の育成や職業観・勤勞観の形成に役立てたい。そして、将来の夢を持つことの意義を理解し、その実現のために今やらなければならないこと、さらに知りたいことや心がけたいことについて考え、実践しようとする意欲を持たせたい。

3. 題材目標

- 将来の夢を持つことの意義を理解させ、将来の進路に対する興味・関心を高めさせる。
- 職業や進路の多様性に気づかせ、自分の将来を展望し、将来設計を立てさせることにより、進路意識の向上を図る。
- 職業選択能力の育成や職業観・勤労観の形成のための基礎を身につけさせる。
- 将来の夢を実現させるために、今やらなければならないことについて考え、実践する意欲を高めさせる。

4. 指導計画

学習内容	学 習 活 動	時間	評価の方法
・ 中学生活の心構えと目標	○中学生活について知り、意欲と希望を持って自己の目標を立てる	1	・ 作文 ・ 目標設定と理由
・ 将来の希望	○自分のよさや興味・関心と、将来の夢や希望を照らし合わせる 「中学生のための世の中仕事カタログ」 (http://www.yonokata.net)	1	・ アンケート ・ 発表
・ 働く人の姿	○身近な人から職業について学ぶ	1	・ インタビュー
・ 働く人々の仕事と 考え	○よりよい職業観について話し合う	2 [本時] 2/2	・ 意見交流
・ 進路講話会	○地域の方の生き方についてお話を聞く (講師：岩淵大起さん)	1	・ 感想文
・ 自分を知る	○自分の適性、興味・関心をはっきりさせる	1	・ 調査、 自他の評価
・ 進路計画の必要性	○将来への希望と見通しを持った進路計画の必要性について学ぶ	1	・ 進路計画書
・ 進路計画の立て方	○進路計画の立て方について知る	1	・ 進路計画書
・ 自分の進路計画	○進路計画書を作成する	1	・ 進路計画書

6. 本時の指導

(1) ねらい

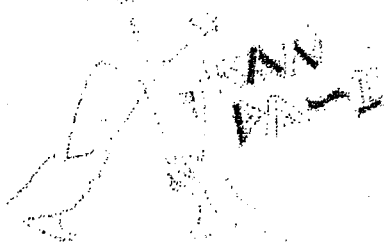
○人は何のために働くかについて考え、職業の3要素について考えを深めさせる。

(2) 指導過程

学習の流れ		生徒の見方や考え方を生かした授業展開 「課題設定」「学び方」「自己評価」への指導	留意点 評価
導入 8分	1. 前時の学習内容の確認	○働く人の姿から学ぶために、夏休み中に行ったインタビューの報告をする。(パワーポイントを使用)	◆前回のアンケートで人気の高かった職業
	2. 学習課題の設定	○人は何のために働くか、職業の3要素に沿って考える。 【課題設定 a-1】	□課題把握できたか
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 人は何のために働くのかを考えよう (職業の3要素について考えを深めよう) </div>	
展開 30分	3. 学習課題の見通し	○職業の3要素(「経済性」・「社会性」・「個人性」)から、人が働くことについてそれぞれの立場から考えを述べる。	◆それぞれの立場の代表者が考えを述べる
	4. 課題の追求	○それぞれの立場で、互いの考えに対し意見を述べ、考えを深める。 【学び方 b-3】	◆正当性を競うのではなく立場を持って意見を述べ合う
	5. 学習課題の解決	○話し合いを通して、自分の考えをまとめ発表する。 ・立場を離れて、話し合いの中から職業3要素について考えたことをまとめる。	□話し合いの中で他から学び考えを深めることができたか
終末 12分	6. 学習のまとめ	○自己評価する。(認知的方略による自己評価) ・学習前に書いた自分の考えと、「学習の流れ 5」で書いた自分の考えとを比較し感想を書く。 【評価 c-3】 ○次時の予告 ・9月8日に行われる「進路講話会」の予告をし、進学や職業に関することだけが進路学習ではなく、広く「生き方」について学ぶものであることを知らせる。	◆進路学習プリント③ ◆講師は岩淵大起さん

(3) 本時の指導における評価

○職業の3要素について考えを深めることができたか。



ミックスフルーツジュース わたしはどんなひと？

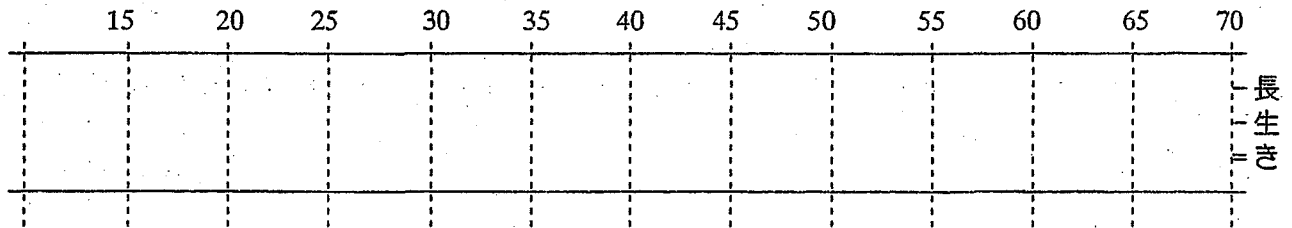
組 番
氏名

1. あなたのいいところ（長所）は、どんなところですか？

2. あなたが将来就きたい職業はどんなものですか。

3. どうしてその職業を選んだのですか。（どうして決まっていなのですか。）

4. 将来設計の年表を書いてみましょう。



5. 仕事をするのに必要なことは何だと思えますか。

6. どんなミックスフルーツジュースができあがりませんか

☆あなたはどんなひと？

☆どんな仕事が向いている？

4. ミックスフルーツジュースの感想を書いてみましょう。

身近な人から職業について学ぼう

組 番 氏名

お話を聞かせてくれた方		わたしとの関係
勤め先と仕事		
仕事の内容		
その仕事を選んだ理由		
その仕事に就くまでの道のり		
仕事をしていて苦労していること		
仕事をしていてうれしいこと		
その仕事をするのに必要なこと	①資格や免許	
	②学歴	
	③適性	
	④興味や関心	
	⑤その他	
仕事を選ぶときの条件	収入 社会貢献 興味・関心 適性 生きがい その他 ()	
仕事をするのに必要なこと	学力 学歴 資格や免許 責任感 積極性 明るさ 協調性 チームワーク 興味・関心 独創性 想像力 ひらめき がまん強さ 社交性 優しさ 思いやり ねばり強さ 意欲 チャレンジ精神 その他 ()	
職業を選ぶために中学生として身につけて欲しいこと		
中学生にメッセージ		

ご協力ありがとうございました！

【お話を聞いて感想をまとめましょう】

身近な人から学んだことをみんなに報告しよう！

組 番 氏名

①仕事をしていてうれしいこと・苦勞していること

②仕事を選ぶ条件は

③仕事をするのに必要なことは

④アドバイス

⑤自分の感想

⑥人はどうして働くのだと思いますか。(あなたの考え)

人は何のために働くのだろうか

組 番 氏名

☆人は何のために働くのでしょうか。3つ書いてみましょう。

○ ため

それは だから

○ ため

それは だから

○ ため

それは だから

☆人は何のために働くのでしょうか。3つ書いてみましょう。

○ ため

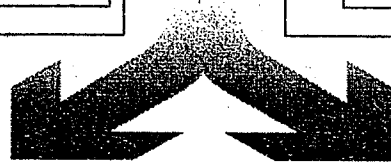
それは だから

○ ため

それは だから

○ ため

それは だから



◇上の二つを比べて、感想を書きましょう。

人は何のために働くのだろう

を話し合おう

組 番 氏名

◇わたしのインタビューした

さんは

[Empty box for interviewee name]

を考えて仕事を選んだ、と話してくれた。

◇わたし自身は

[Empty box for self response]

ので、人は働くのだと思う。

☆つまり、人が働くのは

[Empty box for conclusion]

のため!

◆同じ考えのみんなと話し合ってみました!

★話し合い★まみむMEMO★

[Large empty box for discussion notes]

〔まとめ〕

[Dotted lines for summary]

(資料) 本校の研究に関わる内容について

(1) 共通実践項目

系統的な教材の中に課題を見つけだし問題解決的な学習をさせ、生徒の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるような学習にするために、本校では学習過程の中に (a)【学習課題】の設定、(b)【学び方】体得場面の設定、(c)【評価】場面の設定を位置づけ計画的・継続的に指導していくことによって、学習に目的意識を持ち、自らすすんで実践する生徒の育成ができると考え、取り組んでいる。

(a) 【学習課題】の設定

- 1 既習事項、または興味関心や必要感に訴える課題を設定する
- 2 単元全体の学習計画から、教材の特性や教師の意図により課題を設定する
- 3 教材に関わる情報を収集し、課題を設定する



(b) 【学び方】体得場面の設定

- 1 課題に対して解決方法の見通しを立てる場面を設定する
- 2 自力解決場面を設定する
- 3 学び合い場面を設定する
- 4 定着・反応場面を設定する



(c) 【評価場面】の設定

- 1 意欲を持って楽しく学習に臨んだかを自己評価させる
- 2 自主学習の成果を表現する活動を通して自己評価させる
- 3 本時の課題を解決し、価値把握できたかを自己評価させる



(2) 自己評価の工夫

《これまでの自己評価の問題点》

- ①単なる振り返り
- ②情意面が中心
- ③自己の変容が不可視的
- ④単なる記録に終始
- ⑤学習による変容が具体的内容と無関係
- ⑥教科嫌いに繋がる傾向



教材内容に対する自分の見方・考え方の変容に気づかせ自分の成長に対する実感を持たせる自己評価

認知的方略とは、学習者が自分自身で学習目標や課題を明確化したり、学習内容を熟考し一般化する、別の考えを受け入れる、不適切な知識や考え方を修正するなどの活動を通して、新たな学習目標を設定する能力をいう。

認知的方略は「自己の認知過程についての知識」と「自己の認知過程を制御する過程」から構成されており、前者は「自己評価」によりその実態を把握できる。

「自己の認知過程についての知識」は「自己の能力についての知識」、「問題把握に必要な知識」などから構成されているので、それを自己評価することが認知的方略の実態を把握することにつながる。

(山梨大学教育人間科学部教授 堀哲夫氏による)

1 認知的方略による自己評価の方法

①定式化した調査問題を用いる方法

学習前の知識や考えを調べる問題と学習後の知識や考えを調べる問題を学習者自身が比較して、何がどのように、また、なぜ知識や考えが変わったのかを自由に書く。

②コンセプトマップによる方法

学習前に書いたコンセプトマップと学習後に書いたコンセプトマップを比較して何がどのように、またなぜコンセプトマップが変わったかを学習者が自由に書く。

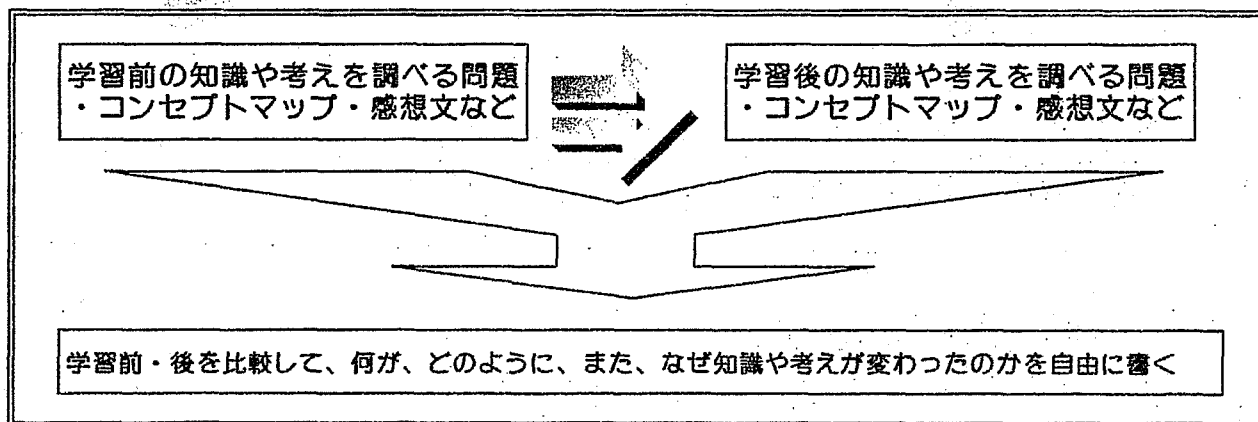
③文章の分析による方法

キーワードを与えてそれに関する文章を自由に書かせ、その内容を分析し子供の既存の知識や考えを知る。

④感想文による方法

学習前後に自由に書いた感想を比較して「おもしろいなあ」「ふしぎだなあ」「変わったなあ」と思ったことを書く。

2 認知的方略による自己評価の基本形



3 分析する方法

①文章記入数の変化

文章分析法で書かせた文章を、学習前・学習後の文章記入数の変化を調べる。

②生徒が自己評価した内容の分類

(認知面)・記入数を基にした内容

・学習後の文章を基にした内容

・学習前後の文章を基にした内容

(情意面)・成就感・満足感を表している内容

・感謝を表している内容

・その他

③教科書の内容項目による類型

キーワードを使って文章を書かせたときの、文章中に見られる教科書の内容項目による類型を分類、分析する。

共通実践項目と自己評価をすえた教科指導の流れ

学習の段階	共通実践項目	指導の手だて	生徒の活動
学習前の状況	【課題設定】 a-1	学習内容に興味・関心を持っていること	<input type="checkbox"/> 単元の全体的な内容をのぞいて、興味・関心のあるところを探る。 <input type="checkbox"/> 単元の全体的な内容をのぞいて、興味・関心のあるところを探る。 <input type="checkbox"/> 単元の全体的な内容をのぞいて、興味・関心のあるところを探る。 (記述)
		<input type="checkbox"/> 単元の系統性の確認 <input type="checkbox"/> 単元の系統性の確認 <input type="checkbox"/> 単元の系統性の確認	
課題の発見	a-2 a-3	学習内容全体の課題が見えていること	<input type="checkbox"/> 問題の所在を明らかにする。 <input type="checkbox"/> 自分(予ら)の考えを明らかにする。
		見方・考え方のずれを際立たせる教材との出会いの工夫	
		学習内容に対して自分なりにイメージを描ける生活体験を持っていること	
課題解決	【学び方】 b-1 b-2	教材に関わる情報収集	<input type="checkbox"/> 解決方法を考える。 <input type="checkbox"/> 実践する。
		課題解決の基本的な方法(学び方)を知っていること	
照らし合わせ	b-3 b-4	課題解決を支援する手だての工夫	<input type="checkbox"/> 自分(予ら)の考えを明らかにする。 <input type="checkbox"/> 自分(予ら)の考えを明らかにする。 <input type="checkbox"/> 自分(予ら)の考えを明らかにする。
		<input type="checkbox"/> 解決方法の見通しを立てる場面の設定 <input type="checkbox"/> 自力解決場面の設定	
自己評価	c	課題解決したときに得られる知的な快感を経験していること	<input type="checkbox"/> 自分(予ら)の考えを明らかにする。 <input type="checkbox"/> 自分(予ら)の考えを明らかにする。 <input type="checkbox"/> 自分(予ら)の考えを明らかにする。
		<input type="checkbox"/> 単元のねらいと生徒が考えたことを照らし合わせ、学習の価値に気づかせる。 <input type="checkbox"/> 学び合い場面の設定 <input type="checkbox"/> 定着反応場面の設定	
		自己評価力を育成すること	<input type="checkbox"/> 考えの变化に気づかせる。 <input type="checkbox"/> 考えの变化に気づかせる。
		<input type="checkbox"/> 教材内容に対する見方・考え方の变化に気づかせる。 <input type="checkbox"/> 教材内容に対する見方・考え方の变化に気づかせる。	<input type="checkbox"/> 考えの变化に気づかせる。 <input type="checkbox"/> 考えの变化に気づかせる。